

## 油藤商事株式会社

# 地域に密着したガソリンスタンドが目指すのは 循環型社会の総合エネルギーソリューション。

油藤商事が経営するガソリンスタンドには、全国からの視察が絶たない。天ぷら油などの廃食油を回収し、バイオディーゼル燃料を精製し再利用する循環を確立したからだ。独自の挑戦を続ける背景や、時代の変化にどう対応してきたのかを青山金吾社長、青山裕史専務にお聞きしました。

### Sustainable Action

経営環境が大きく変化する現在、「企業の持続可能性」が注目されています。このコーナーでは、新分野進出、事業転換、海外進出などの戦略により事業を持続してきた企業を取り上げ、その経営のヒントを紹介します。

### 創業は、天秤棒で油売り 自家用車時代の到来で発展

創業はいつですか？

青山社長 ■1897(明治30)年頃、創業者の青山藤八が植物性のカンテラ油を天秤棒に担いで、現在の五個荘から鳥居本あたりにかけて行商したのが、当社の始まりです。この地域では3代目の私まで、変わらぬお付き合いを続けていただいているお客さまが何軒もあります。その後、1955(昭和30)年頃になると、2代目の父(青山藤一氏)が灯油の販売を始め、私も高校時代から自転車で配達の手伝いをしました。

ガソリンスタンドを始めたのは？

青山社長 ■1959(昭和34)年、ポータブル

給油機を購入しガソリン販売を本格的に始めました。やがてモーターゼーションの広がりに伴い、設備を整え、ガソリンスタンド形式で販売を開始したのが1963(昭和38)年でした。

### 激化する安売り競争の中で 油屋は油屋。基本はブレない

価格競争が激化し、ガソリンスタンドの経営環境は厳しいと聞きますが？

青山社長 ■当社の3つのガソリンスタンドはフルサービスでガソリンを提供しており、若いお客さまなどはやはり価格の安い、他社のセルフスタンドに流れています。しかし、地域で一番古くから商売している信頼感から、地域のお客さまの多くが引き続きお取り引きしていただき、配達も多

いことが安定した売り上げにつながっています。おかげさまで、業界全体が低迷する中でも当社は前年を上回る数字を上げ続けることができています。

ガソリン販売以外で収益を増やそうと、車検や自動車販売など多角化を進める会社が増えていきます。当社もいろいろと手がけていますが、基本は油屋。油屋が油を売らないで他のものを売るのは間違い。当社はガソリンが儲からないからといって関連商品の取り扱いを広げるよりも、専務が中心になってガソリンに替わるエネルギーに力を入れてきました。

### 広がるバイオディーゼル燃料 総合エネルギーソリューションへ

今、大きな注目を集めているバイオ

ディーゼルの販売ですね。

青山社長 ■天ぷら油からつくったバイオディーゼル燃料をガソリンスタンドで売ることなんて、私には思いもよらないことでした。悩みましたが、ともかく専務がやりたいようにやらせることにしました。

青山専務 ■バイオディーゼル燃料の精製機械を入れたのが、2003年。できあがったものはそのまま原液で販売するほか、軽油に5%混合し販売します。初代が商売を始めたときに売り歩いたのは、植物油でした。生物由来の油であるバイオディーゼル燃料を売るとは、初代がしていたことに戻ることだと私は思っています。

バイオディーゼル燃料の利用は広がっているのですか？

青山専務 ■地域の家庭から出た廃食油を持ってきていただく回収ステーションは現在170カ所。家電メーカー、運送会社、滋賀大学などでは、県内拠点の食堂の廃

食油から作ったバイオディーゼル燃料を送迎バスや配達車両に再利用する循環もできています。こうした企業、公共交通機関との連携は次々と広がっており、現状では生産が追いつかないほどです。

専務はガソリンスタンドが将来、どう変わっていくとお考えですか？

青山専務 ■もう少しすれば燃料電池が普及し、ガソリンで走る車が珍しいという時代になるかもしれません。そのときにはガソリンだけでなく、ガス、電気、バイオマスエネルギーなどを幅広く揃えた中から、消費者が自由に選択できる総合エネルギーソリューションになるのではないのでしょうか。

現在、ガソリンスタンドは全国に約3万8000カ所あります。これだけの拠点の存在価値を高めることにみんなが取り組んでいけば、ガソリンスタンドの未来は非常に optimistic になると思います。

### 「商売は牛のよだれ」の心得 聞き上手が時代の変化をつかむ

最後に、持続的な成長をするために、大切にしていることを教えてください。

青山社長 ■「商売は牛のよだれ。細く長くせよ」と、私が子どもの頃、先代代からよく言われました。教えを守って急激な規模の拡大を目指さず、1カ所ずつ、家賃、リース料のいらぬ自社物件にしてガソリンスタンドを増やしてきたことで着実な成長を続けることができました。

また、社会の変化になんとかうまく乗れたことが成長を持続することができた理由だと思います。変化をつかみ、新たな需要に因應するためには、常に人の話の聞き手に回る、そのことを私自身はとにかく大事にしてきました。人の話の中には必ずビジネスのヒントがあるものです。



油藤商事株式会社

代表取締役社長 青山金吾氏

### Profile

- 本社/滋賀県犬上郡豊郷町高野瀬645
- 創業/明治30年
- 資本金/5,000万円
- 従業員数/25人(関連会社含む)
- 事業内容/ガソリンスタンド、バイオディーゼル販売給油所、LPガス販売、設備工事、住宅リフォーム工事

<http://www.aburatou.co.jp/>



見学の学生に各家庭から回収された廃食油について説明する青山裕史専務



回収ステーションなどで廃食油を回収する専用ローリー



創業当時の看板